

15. 若年看護職員(1年次～3年次)教育と支援の取り組み—教育委員を活用—

岡山大学医学部・歯学部附属病院 國平 茂子

【実践の概要】

当院では、ICU・CCUの増床と、7：1看護体制実現のため看護職員数の大幅な増員があり、来年度の採用でも120名という新人を迎えることになった。増員分の看護職員は、新卒新人が担っており、来年度は若年者(1年次～3年次)の看護職員がすべての看護職員の4割を占めることになる。今年度は大量に採用した看護師の育成のため、看護部では、新人支援専任看護師長の配置・体験型学習の増加・時間内の研修・標準化の促進・メンタルサポートの強化に取り組んだ。来年度は、新卒新人のみでなく1年次を含む若年者の看護職員の育成が大きな課題となる。副看護師長からなる教育委員が、現場での教育のモデルとして活躍できるシステム作りと、教育委員の意識改革が教育担当副看護部長の課題である。

【実行計画】

1) 若年看護職員の成長した姿・到達目標を可視化できる。

まず、到達目標を明文化し各部署に配布する。そして、基礎看護技術評価表に達成してほしい時期を加筆することで、基礎看護技術習得に取り組みやすいように改善する。(平成20年3月までに)

2) 基礎看護技術習得のための、体験型教育環境(DVD・シミュレーター)を整備する。(平成20年3月までに)

3) 経年別(1年次～3年次)研修内容を見直す。

1～3年次看護職者は必須の経年別研修を受講し、4年次以上は希望する院内研修を受けている。今年度の研修を評価し、若年者が増えた現状を考慮した集合教育を企画する。(平成20年3月までに)

4) 教育委員の現場教育モデル化による委員会の活性化。

教育委員を各部署における現場教育の担当者として改めて周知する。教育委員は、部署の新人の成長レベルを把握し、基礎看護技術評価実施後はそれぞれが、問題解決プランを立て実行することができる。そのために教育委員会は、情報収集やディスカッションができる場となる。(平成21年2月まで)

【結果およびまとめ】

1) 1年次から3年次までの到達目標案ができたので、看護部管理室・看護師長会で承認され公表する予定である。

2) 基礎看護技術の映像DVDの撮影は修了し、3月～4月に完成予定となっている。「皮下・筋肉注射について」の映像は、平成20年度採用予定者の研修で使用した。

3) 経年別研修内容は、看護記録の電子化が進む中、看護過程や看護診断過程を早く学ぶ必要があることから、4年次以上の研修から、2年次研修に変更した。その以降措置として平成20年度は2年次・3年次・4年次以上のコースで記録に関する研修を開講する予定とした。

4) 教育委員が現場で若年者教育に力を注げるように、教育委員会の年間行事をマニュアル化した。行事に関する仕事は、教育担当副看護部長と看護師長が協力して行う。3月に行った採用予定者の研修では、今年新しく「皮下・筋肉・インスリン注射」の演習を行った。教育委員は

主体的に準備を行い、演習にも積極的に参加し、採用予定者への指導も看護実践のスペシャリストとしての指導が行えた。この指導が現場での教育に活かされる支援が必要となる。

【評価】

平成20年3月までに、準備すべきことは、計画どおり進んでいる。今後は、人を動かし支えながら、現場での教育体制をいかに作るかが課題である。3月の教育委員会で、来年の活動について導入の説明を行った。4月に新年度の教育委員が決定後協力を求め、委員会の目標として取組む予定である。